

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800326		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート東金		
所在地	千葉県東金市堀上944		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○外出支援を積極的に行っています。今年度実績として、イチゴ狩り、まねぎ狩り、蛍狩り、紫陽花狩り、茂原七夕祭り、他事業所納涼祭参加、チューリップ祭り球根植え、初詣、御宿つるし雛、勝浦ビッグひな祭り(予定)</p> <p>○毎月の外出は、外食会、カラオケ会、認知症カフェなど</p> <p>○食事は、旬の食材を取り入れた献立作りを行っています</p> <p>○毎月、テーマを設け職員研修を行い、スキルアップを目指しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念の「あんとんねえさ」は職員が方言を使うことを提案してつくったもので、「なんともない。」「大丈夫」という意味である。管理者、職員は認知症であっても「あんとんねえさ」を合言葉に、利用者支援にあたっている。季節ごとに、いちご狩りやアジサイを見に行ったり、車で日帰りの旅行にも出かけている。旅行にあたっては、職員が下見に行くとともに、利用者も階段昇降などをおこない、全員が安全に参加できるよう支援している。また、近隣幼稚園の行事に出かける、毎週地域のゴミ拾いに参加するなど、地域の一員として生活できるよう支援している。毎月テーマを決めて職員研修をおこない、サービスの質の向上に繋げている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の方言で「何ともないよ」「大丈夫」を意味する「あんどんねえさ」をサービススローガンとして継続し、管理者・職員共に共有しています。	理念の「あんどんねえさ」は職員が方言でつくることを提案してつくったものである。管理者、職員は日々「あんどんねえさ」を意識しながら、利用者支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食会やカラオケ会、理髪店は地域のお店を利用しています。地域の一斉清掃や地区の敬老会に参加しています。地域の幼稚園と運動会・敬老会・クリスマス会などの交流があります。	回覧板が回ってきており、地域の清掃や敬老会に参加している。外食やカラオケでは近隣の店に行くなど、地域の中で生活することを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、介護相談を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様状況、行事の案内をして市の職員や、民生委員さん、他事業所の管理者の方から、アドバイスを頂き取り入れています。又は事業所からの情報を発信しています。	地域包括支援センター、民生委員、近隣幼稚園の園長、他の事業所などの参加を得て年6回開催している。ホームから状況報告をしてアドバイスなどをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会には毎回参加いただき、貴重なアドバイスや意見を頂いています。居室の空き状況を報告して、市民への案内やケアマネ会議の際、情報提供をしています。	毎月市担当課を訪問して、ホームの現状を報告したり相談している。また、運営推進会議で、意見や助言を得ている。地域密着事業所連絡会にも参加して、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間帯で玄関の施錠はしていますが、外出の制限はしていません。階段は転落防止の柵は設けていますが、施錠はしていません。	身体拘束適正化のための指針があり、職員研修を年2回実施して、身体拘束をおこなわないケアを事例をあげて職員で確認している。安全確保のために、玄関は施錠しているが、外に行きたいという場合は応じるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待をすることによる弊害を学び防止に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度や権利擁護に関する制度をテーマに研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、お客様、ご家族の不安や質問にお答えし、ご納得後に、署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、本社でお客様アンケートを実施しています。また、結果を公表し改善しています。お客様の意見を参考に改善計画を作成し改善の結果等をお知らせしています	家族には年1回アンケートを実施して希望を把握している。また、利用者からは日常生活の中で聞き取るようにしており、意見は検討して反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議で発言する機会を設けています。営業部会議で意見を提案し、改善、反映させています。 正社員総会を年1回開催し発表の場を設けている	会議では全員が発言できるようにしており、出された意見は法人の会議に出して反映できるようにしている。外出企画などについての意見は、シュミレーションをおこない、安全に配慮して反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格制度と資格段位制度を導入しています。 年2回の人事考課制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護リーダー、新卒1年～3年の職員を対象にした研修を本部開催で行っています。 外部研修の1例として、ほめ達研修を半年に1回行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しています。また地域の合同研修会にも参加し、他事業所の運営推進会議に参加しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご自宅や入院先にお邪魔させていただき、顔なじみになっていただけるように働きかけています。 ご家族から生活暦等を伺い、話題にします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	私たちができる事できない事をしっかりと伝えたくお客様が望んでいる生活に近づけるようなプランの提案をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスの種類や利用料をお知らせし、入居型サービスの対象者など判断材料の提供も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭菜園の管理や調理法などをお客様から教えていただき、一緒に保存食作りをしています。 館内消毒を一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にお誘いしたり、外出、外泊は制限を設けることなく対応しています。体調不良時は、連絡をしてお見舞いに来ていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や近所の方がお見えになったりしています。また、かかりつけの病院を受診したり、馴染みの美容院等を利用しています。	友人、親族、家族などの訪問を歓迎している。また、お墓参りなどにも行けるように支援している。馴染みの美容院に行きたいという希望には職員が送迎をおこなうなど、これまでの関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	下膳や、洗濯物を干す畳むなど得意なことをお客様同士で協力して頂いています。 カラオケなど、共通の趣味の方との交流を支援しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院しているお客様は病院・ご家族と連絡を取り合っています。 今後の対応など、個別の相談に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、ご本人の希望や関心事を汲み取るように努めています。困難な場合、ご家族と相談したり、皆様と同じ事を体験していただいたりして本人本位の支援に努めています。	本人の希望は入浴介助時や居間・居室での会話を通じて聞き取るようにしている。また入居時に生活歴・生活環境等を聞き取っており、家族からも情報を得ながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の際、生活歴などをお伺いしています。また職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送り、モニタリングの際に気がついた事があれば、職員間で報告と現状の把握、共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望をふまえ、主治医や薬剤師と担当者会議等の場で話し合い、プランを作成しています。	家族などの意見や利用者の意向を把握したうえで、月1回の職員会議で話し合って介護計画を作成している。また、主治医や薬剤師などにも相談しながら、現状に即した介護計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、プラン実践状況を記録し、介護記録や関わり方の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自費のサービスでの多機能化に対応していますが手が届かない部分もあるかと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへの買い物や幼稚園の運動会に参加したり、園児をホームに招待するなど、関係を築いています。近くの小規模多機能の催しに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続しています。またかかりつけ医の紹介で専門医を受診することもあります。	月2回の訪問診療や週1回の訪問歯科により、利用者の健康管理をおこなっている。通院については家族の協力を得ているが、状況を確認するため職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の情報や、気づきを主治医や薬剤師に相談させて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会は勿論、担当医や看護師に病状や治療方針、また期間、退院後に注意する事などを担当者会議を開催し伺うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、なるべくご要望を反映させますが、出来る事とできない事を主治医を交え早期に話し合いをします。状況によっては、入院のご案内をしています。	利用者の状態の変化に伴い、今後の方針について本人・家族・主治医などと話し合いを重ねている。病院や施設に移る支援や、在宅復帰の場合は小規模多機能型居宅介護事業所を紹介するなど、今後の生活を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で救急救命・応急手当の仕方、AEDの使用方法を学び、緊急時役立てられる様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っています。また夜間を想定した避難訓練も行っています。社内研修では避難経路の確認、消火器の設置場所の確認をしています。	避難訓練をおこない、災害対策の検討をしている。昨年台風・豪雨災害時は井戸やプロパンガスで乗り切る事ができた。備蓄品や非常食も準備している。	有事の際、当日の職員が適切に対応できるように、マニュアルを整備して周知することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪問する際は、必ず声をかけさせていただいています。排泄、入浴では最小の職員で対応できるように心がけています。	当ホームで長く働いている職員が多く、その分利用者とも親しくなっており、言葉遣いなどが馴れ馴れしくならないように注意している。また、トイレはドアが開いても見えないようにカーテンを設置するなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出等で選択する場面を作っています。日々の献立は、お客様の要望を取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴回数や時間など、本人の希望を叶えるように支援しています。自由に過ごしていただき、外出支援もしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店でカットしたり、衣類を一緒に買い物に出かけたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから、調理補助など一人ひとりのできる範囲を勘察し、手伝って貰います。また外食会でレストランや食堂に食べにでかけます。	利用者は食事の下ごしらえや下膳・食器洗いなどに参加している。食事は利用者の意見や好みを聞きながら、新鮮な旬の食材でつくるようにしている。近隣での外食の他、日帰り旅行の時に好みの物を選ぶなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆様の要望を考慮しつつ栄養のバランスが保てるよう考慮しています。水分は1日1500ccを目標に飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の前にうがい・手洗いを、食後はうがいや歯磨きをしています。必要に応じて、訪問歯科の受診や歯科医、歯科衛生士のアドバイスをいただいています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皆様、基本はトイレで排泄しています。布パンツの方もいます。	水分摂取や運動、食物繊維の多い食事を提供しよう心がけ、自然な排泄につなげるようにしている。全員がトイレを使用しており、状況に応じ声掛け・誘導などをおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500ccを目標に水分を取っていただき、適度な運動とストレッチ体操の支援をしています。 排便スケールを用い、便の状態を観察し主治医にアドバイスを頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定の曜日や時間はありますが、希望に沿った対応をしています。好みの入浴剤を使ったり、ゆず湯等で季節の演出をしています。	入浴は週2回を基本とし、様々な入浴剤を用意して、入浴が楽しめるように配慮している。また、利用者の皮膚の乾燥対策として、保湿効果のあるボディソープを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただくことや居室の温度や明るさにも気を配り、寝具や寝巻きなど安眠できる環境づくりを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指導のもと、服薬介助をしています。体調に変化が見られた時は速やかに主治医、薬剤師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	献立書きや洗濯物の量みなどをお願いしたり、職員とキャッチボールや塗り絵を楽しむ方もいます。感染対策として施設内の手すりなどの消毒をいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食会、カラオケ、認知症カフェに外出する機会を設けています。遠足を企画し、箱根(大涌谷)、イチゴ狩り、蛍狩り、たまねぎ狩り、あじさい狩り、初詣、七福神めぐりに出かけました。	日常的に近隣を散歩している。また、季節ごとに、いちご狩りやアジサイを見に行ったり、車で日帰りの旅行にも出かけている。旅行にあたっては、職員が下見に行くとともに、利用者も階段昇降などをおこない、全員が安全に参加できるよう支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設管理ですが、お買い物の際は、ご自身で会計をしていただけるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の制限は設けていません。電話をかけたり、取り次いだり、年賀状、手紙の投函と一緒に出かけたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、季節ごとに装飾を変えるなど工夫をしています。	季節感を大切にしており、訪問時には段飾りのお雛様が飾ってあった。リビングと台所が続いており、調理の音や匂いがするなど、家庭的で居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを、玄関に縁台を置き、自由に過ごしていただけるよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や思い出の品を持ち込んでいただき、ご自身の部屋を再現して戸惑いなく過ごしていただけるように工夫しています。	居室には使い慣れたタンスやテレビ、鏡などを持ってきており、それぞれ自分らしく過ごせる部屋になっている。また、温度、湿度も管理して快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの利用を控え、階段昇降を運動メニューに取り入れています。トイレの案内を廊下に表示し、わかりやすくしています。		

【評価機関】